



I 第23週の発生動向 (2026/6/1~2026/6/7)

1. 水痘について、中南保健所管内の定点当たり報告数が新たに**注意報レベル**となりました。
2. 日頃から手洗いや咳エチケット等の基本的な感染対策をお願いします。

※現在、国及び国立健康危機管理研究機構が警報・注意報の基準値について確認を進めているところですが、県の週報に記載する発生動向では、当面の間、従前の基準値を用いて注意喚起を行います。

<感染症の窓>

今週のテーマは「エボラ出血熱」です。

最終ページに掲載しています。

II 第23週五類定点把握対象疾患

※記載データは、速報値です。

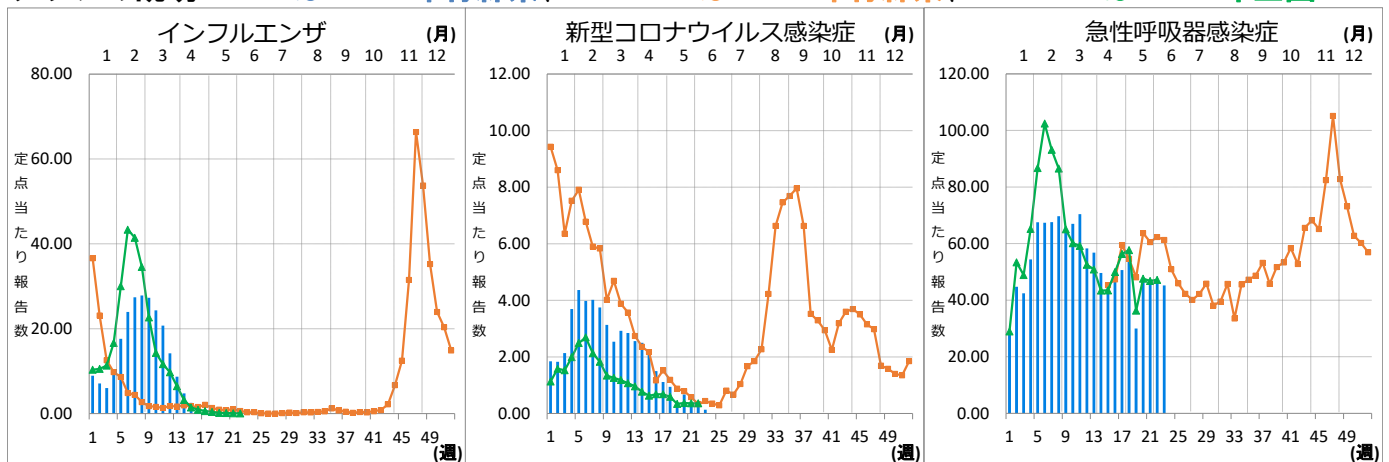
青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

■ は警報、■ は注意報、「空欄」: 患者報告無し。

	東青 (東津軽+ 青森市保健所)		中南 (中南保健所)		三八 (三戸+ 八戸市保健所)		西北 (西北保健所)		上北 (上北保健所)		下北 (下北保健所)		青森県計	前週 からの 増減		
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		
急性 呼吸器 感染症	インフルエンザ		1	0.10			1	0.17			1	0.17	3	0.06	1	
	新型コロナウイルス感染症	2	0.18	2	0.20	2	0.20	1	0.17					7	0.13	-6
	急性呼吸器感染症	723	65.73	324	32.40	334	33.40	212	35.33	392	43.56	366	61.00	2351	45.21	-103
小児科	RSウイルス感染症										1	0.25	1	0.03	-9	
	咽頭結膜熱	3	0.50			3	0.43	4	0.80					10	0.29	-2
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	11	1.83	8	1.33	13	1.86	13	2.60	8	1.33	3	0.75	56	1.65	1
	感染性胃腸炎	24	4.00	16	2.67	17	2.43	28	5.60	5	0.83	5	1.25	95	2.79	-4
	水痘	1	0.17	7	1.17	3	0.43							11	0.32	-2
	手足口病			1	0.17	9	1.29			5	0.83			15	0.44	-3
	伝染性紅斑							2	0.40					2	0.06	1
	突発性発しん	4	0.67			4	0.57			2	0.33			10	0.29	1
	ヘルパンギーナ															0
	流行性耳下腺炎															-1
眼科	急性出血性結膜炎														0	
	流行性角結膜炎														0	
基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)														-2	
	クラミジア肺炎														0	
	細菌性髄膜炎								1	1.00			1	0.17	1	
	マイコプラズマ肺炎										2	2.00	2	0.33	0	
	無菌性髄膜炎														0	

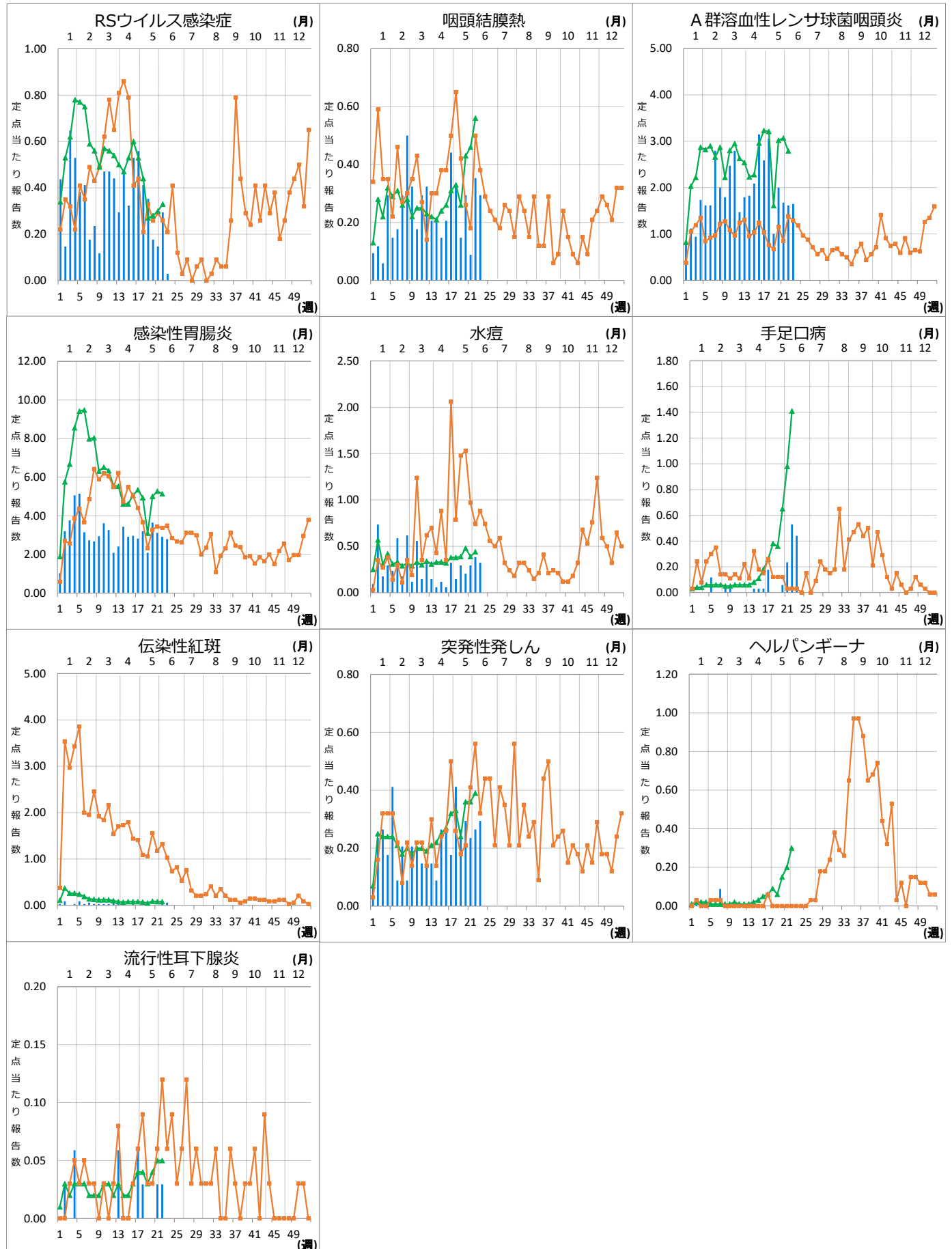
III 定点把握対象疾患週別推移 (急性呼吸器感染症定点) (2026年第23週、ただし全国は前週)

グラフの説明 ← 〇は2026年青森県、■は2025年青森県、▲は2026年全国



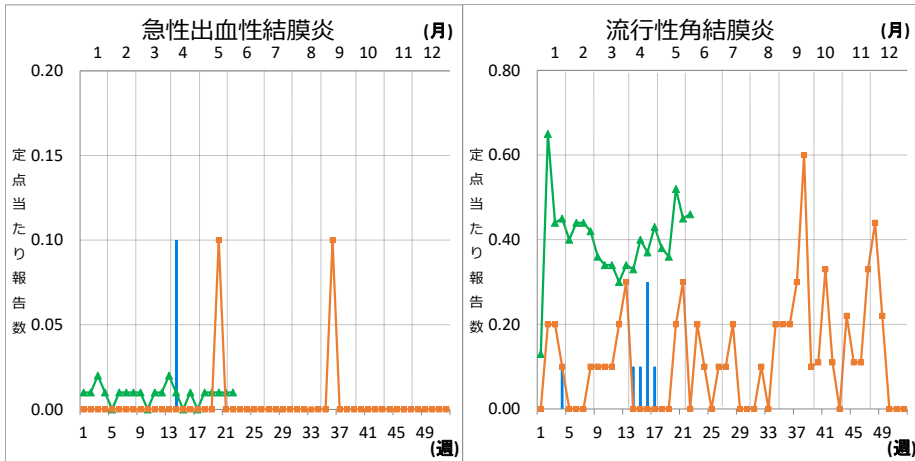
IV 定点把握対象疾患週別推移（小児科定点）（2026年第23週、ただし全国は前週）

グラフの説明 は2026年青森県、 は2025年青森県、 は2026年全国



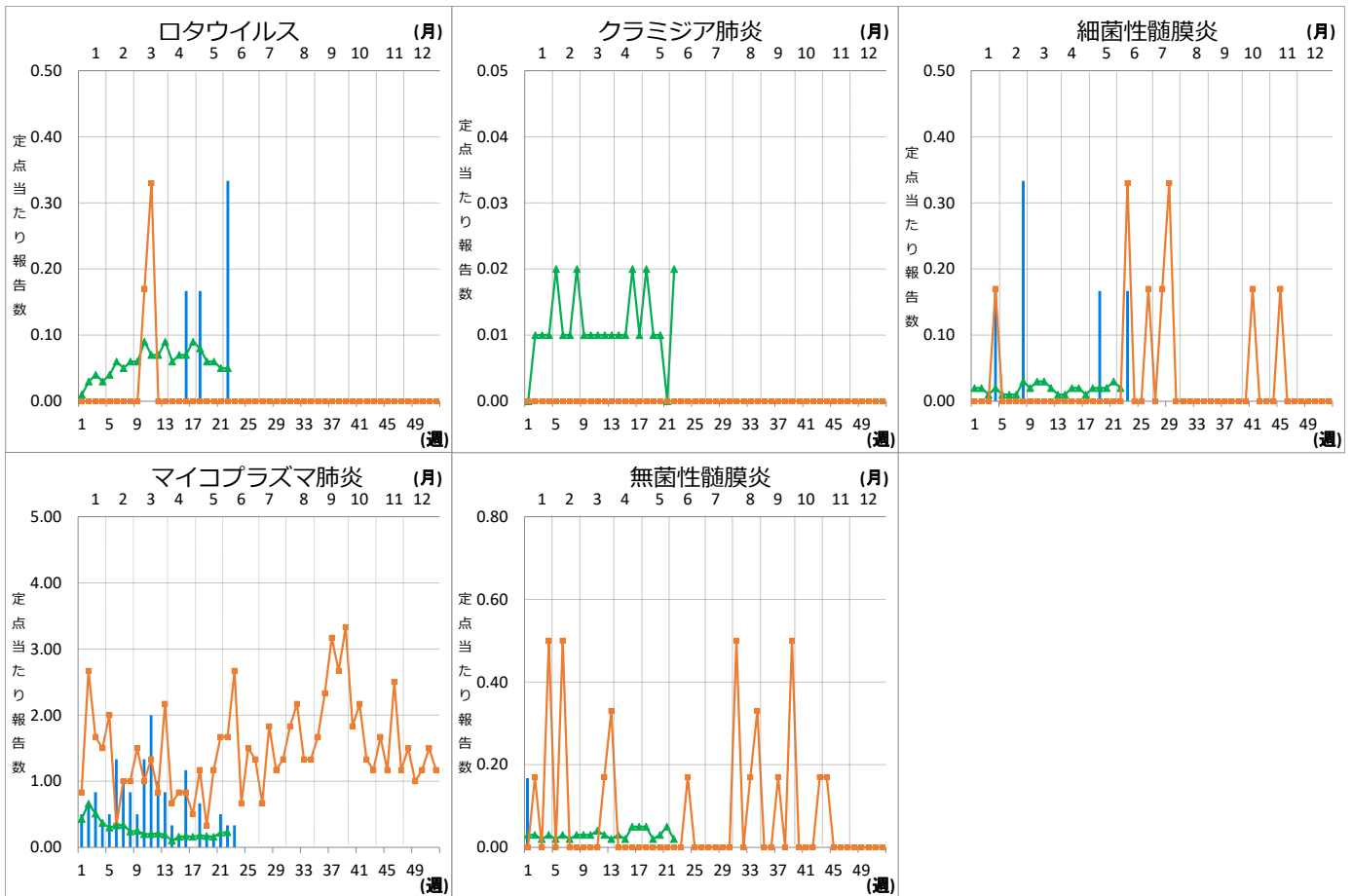
V 定点把握対象疾患週別推移（眼科定点）（2026年第23週、ただし全国は前週）

グラフの説明 ← は2026年青森県、■—■は2025年青森県、▲—▲は2026年全国



VI 定点把握対象疾患週別推移（基幹定点）（2026年第23週、ただし全国は前週）

グラフの説明 ← は2026年青森県、■—■は2025年青森県、▲—▲は2026年全国



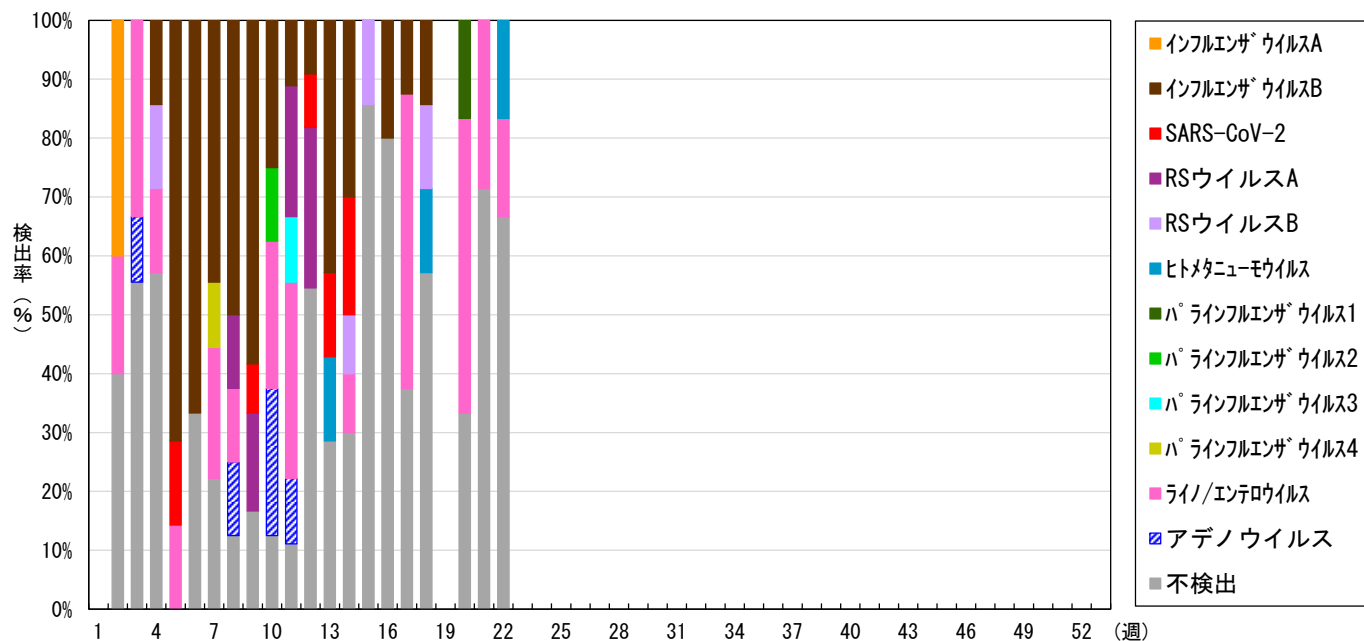
## Ⅶ 急性呼吸器感染症(ARI)病原体検出情報

### (1) 急性呼吸器感染症病原体定点からの提出検体数及び結果判明分 (2026年第16週～23週)

急性呼吸器感染症	2026年							
	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週
提出検体数	5	7	7	0	6	7	6	8
インフルエンザウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	0
インフルエンザウイルスB	1	1	1	0	0	0	0	0
SARS-CoV-2	0	0	0	0	0	0	0	0
RSウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	0
RSウイルスB	0	0	1	0	0	0	0	0
ヒトメタニューモウイルス	0	0	1	0	0	0	0	1
パラインフルエンザウイルス1	0	0	0	0	1	0	0	0
パラインフルエンザウイルス2	0	0	0	0	0	0	0	0
パラインフルエンザウイルス3	0	0	0	0	0	0	0	0
パラインフルエンザウイルス4	0	0	0	0	0	0	0	0
ライノ/エンテロウイルス	0	4	0	0	3	2	1	0
アデノウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0
不検出	4	3	4	0	2	5	4	0
検査待ち	0	0	0	0	0	0	0	8

※第17週に提出された検体のうち、インフルエンザウイルスB及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

### (2) 検出された病原体の週別推移 (2026年第1週～22週)



**Ⅷ 全数把握対象疾患発生状況（第23週）**

- ・結核（二類感染症）：下北2人 （2026年計： 37人）
- ・腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）：中南1人 （2026年計： 8人）
- ・侵襲性肺炎球菌感染症（五類感染症）：八戸市1人 （2026年計： 10人）

**Ⅸ 保健所管内別全数把握対象疾患発生状況（2026年第20週～2026年第23週）**

週	東青 （東津軽保健所+ 青森市保健所）	中南 （中南保健所）	三八 （三戸保健所+ 八戸市保健所）	西北 （西北保健所）	上北 （上北保健所）	下北 （下北保健所）
20	結核3人	カルバペネム耐性腸 内細菌目細菌感染症 1人	結核1人	結核1人	結核2人	
21			細菌性赤痢1人		カルバペネム耐性腸 内細菌目細菌感染症 1人	
22	侵襲性肺炎球菌感染 症1人 梅毒1人	レジオネラ症1人	細菌性赤痢1人			つつが虫病1人
23		腸管出血性大腸菌感 染症1人	侵襲性肺炎球菌感染 症1人			結核2人

**X 全数把握対象疾患発生状況（全国-青森県）**（注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

**全国**（2026年第1週～第22週までの累計）

分類	二類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノкокクス症	エムポックス	オウム病
累積報告数	5827	36	879	17	6	289	105	7	63	1
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	回帰熱	コクシジオイデス症	重症熱性血小板減少症候群	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎	マラリア	レジオネラ症
累積報告数	1	3	65	1	53	33	108	2	16	740
分類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性弛緩性麻痺	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群
累積報告数	4	202	83	404	9	194	4	67	607	378
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	多剤耐性緑膿菌感染症	梅毒	播種性クリプトкокクス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症
累積報告数	16	248	30	1427	357	57	4586	75	40	40
分類	五類	五類	五類	五類						
疾病名	百日咳	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症						
累積報告数	3101	2	523	6						

**青森県**（2026年第1週～第23週までの累計）

分類	二類	三類	三類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	A型肝炎	つつが虫病	レジオネラ症	アメーバ赤痢	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症
累積報告数	37	2	8	3	1	1	1	2	2	6
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類				
疾病名	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	梅毒	百日咳				
累積報告数	1	4	10	6	7	18				

**XI 病原体検出情報**

報告はありませんでした。

## Ⅶ 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

2026年第23週

報告週	施設種別	発症者数	管轄保健所
第23週	報告なし		

2026年報告件数及び発症者数

施設種別	月(週)	1月	2月	3月	4月	5月	6月				6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計 (施設別)
		1-5週	6-9週	10-13週	14-17週	18-22週	23週	24週	25週	26週	23-26週	27-31週	32-35週	36-39週	40-44週	45-48週	49-52週	
介護・老人福祉関係施設	件数	2	2	6	2	3	0											15
	発症者数	37	44	69	23	42	0											215
児童・婦人関係施設等	件数	4	0	1	3	4	0											12
	発症者数	92	0	30	73	63	0											258
障がい関係施設	件数	1	0	1	0	0	0											2
	発症者数	20	0	18	0	0	0											38
その他施設	件数	0	0	0	0	0	0											0
	発症者数	0	0	0	0	0	0											0
計(月別)	件数	7	2	8	5	7	0											29
	発症者数	149	44	117	96	105	0											511

## 感染症の窓

### エボラ出血熱

エボラ出血熱は、エボラウイルスによって引き起こされる感染症です。

感染すると2～21日の潜伏期間を経て、発熱や頭痛、筋肉痛などの症状があらわれ、続いて嘔吐、下痢、発疹などが見られることがあります。進行すると出血傾向や意識障害などの重篤な症状を示し、死亡することもあります。致死率は高く、25～90%と報告されており、非常に重篤な感染症です。

エボラウイルスは、感染者の体液等（血液、分泌物、吐物・排泄物）に触れることにより感染します。また、感染した野生動物との接触でも感染の可能性があります。

2026年5月、コンゴ民主共和国および隣国ウガンダにおけるエボラ出血熱流行の報告を受け、世界保健機関（WHO）は両国の状況を「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」に該当する旨を宣言しました。現在、主に発生が確認されている地域は、首都から遠い紛争地域であり、日本との直接往来は限定的であるため、日本での輸入症例の発生や、日本国内での伝播の可能性は低いと考えられています。

流行地域への渡航の予定がある方は、厚生労働省検疫所ホームページ等で最新の情報を確認し、不要不急の渡航や現地での感染防止に十分留意してください。

○詳しい情報はこちらをご覧ください。

☎ [エボラ出血熱（厚生労働省 HP）](#)



## コンゴ民主共和国 ウガンダ

で、エボラ出血熱が発生しています。

**【検疫所からのお知らせ】**

- ✓ 感染した人の血液や体液、これに汚染された可能性のあるもの、動物（死体を含む）に触らないでください。
- ✓ 病原体に感染したおそれがある方を対象に、最大21日間、健康状態の観察を行います。**コンゴ民主共和国又はウガンダ**に渡航又は滞在された方は、帰国時に検疫官にお申し出ください。

**エボラ出血熱**

**症状**  
潜伏期間は2日から21日程度で、発熱、全身倦怠感、筋肉痛、頭痛などの症状に始まり、その後、嘔吐、下痢、発疹が出現します。さらに症状が重篤すると、出血傾向や意識障害が生じます。

**感染経路**  
感染した動物（コウモリ、霊長類など）や感染した人の体液等（血液、分泌物、吐物・排泄物など）との接触などです。

詳しくは [海外で健康に過ごすために](#) **FORTH** **FORTH** 【エボラ出血熱】

厚生労働省検疫所

出典：厚生労働省検疫所 リーフレット